

学校HPはコチラ

**二 星**

唐桑中学校

令和５年度

アイコン

自動的に生成された説明

校長室だより　№３

令和5年７月７日発行

令和５年７月７日　学年懇談会挨拶

　「今の精一杯を」　一日一生

　令和５年度も３か月を過ぎました。子供たちは日々、それぞれが自分の精一杯で過ごしています。

　象徴的だったのは、なんと言っても生徒会活動です。お互いを認め合う生徒同士のつながりが、本当に温かく、微笑ましく感じました。全校集会でも行事でも、自分たちの感性を大切にし、笑う場面では遠慮なく笑い、真剣に取り組むべき場面では心から真剣に取り組む、という全校の姿勢がありました。

　一方、先生方についても、会議では「この子たちが育っていくためには、私たちに何ができるか」「授業でもっと学力を高めていくために、私たちはどのように工夫すべきか」を真剣に話し合ってくれます。話し合いからは「生徒や保護者への不満」がまったく聞こえません。「今」をスタートと考え、これからの道をいかにすべきかを悩み、考え、改善しようとしている職員室。

先日も「七夕飾りをつけたらどうだろう」と話題を出した、その日の放課後には昇降口に七夕飾りがありました。その真摯な職員室を、校長として本当に有り難く、誇らしいことだと感じています。

　保護者の皆様のご協力も本当に素晴らしい、心からそう感じています。中総体へのお見送り、急な３学年PTA案内へのご対応、PTA各部会の話し合いの様子。あらためて、本校が保護者の皆様によって支えられていることをしみじみと感じた３か月です。

ぜひ、これからも保護者の皆様にも前向きに相談させていただきますので、これまで同様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

嬉しい話

昨日、「薬物乱用防止教室」を開催しました。私は出張があり、中途で座を外したのですが、次の日、講師の先生からお電話があり、次のようなお褒めの言葉をいただきました。

「私は２０年以上、この仕事を続け、各校を回っていますが、今回の唐桑中学校のような素晴らしい学校はありませんでした。まず、子供たちの聞く態度が立派でした。ただ静かということではなく、笑いもあり、反応も取組も良く、薬物乱用の危険について本気で考えてくれました。最後に代表で感想を述べた子供たちは、一人一人がその場で言葉を紡ぎ、これから気をつけなければならないという決意を自分の言葉で述べてくれました。

また、先生方も、ロールプレイングの場面でサングラスを付けて演じるなど、子供たちのやる気を高め、雰囲気を盛り上げるための協力に一生懸命でした。おそらくは、普段も、子供たちの将来を真剣に考えて仕事をしていることが容易に想像できました。

このような感動は、なかなか味わえる機会がないので、昨日、帰り際に、教頭先生に『校長先生によろしくお伝えください』とお願いはしたものの、今日、あらためてお電話した次第です。校長先生、本当に素晴らしい学校ですね！」

　このようなお言葉をいただくと、本当にうれしくなります。紹介させていただきました。

全校集会　校長講話　「大人になるにつれて」

　中学校は「大人になるための学校」です。これまでも、「失敗を繰り返すことの価値」「一生懸命に頑張ることの価値」をお話ししてきました。今日は、「気遣い」について話します。

幼い子供は、「言って良いこと」「言ってダメなこと」の区別が付きません。しかし、大人になるにつれて、その判断が身に付いてきます。そのあたりを考えてみましょう。

まず、自分の家を思い浮かべてください。どのお宅にも、お客様をお迎えする部屋があるはずです。一方で、「とてもとても家族以外には見せられない、入ってもらっては困る」という部屋もある。

実は、会社やお店もそうです。お客様をお招きする部屋と、内部の人だけが入れる部屋がある。

社会生活をしていく上では、「人に見せられる部分」と「見せられない部分」があることを知っておくこと、また、招かれる方も、「ここまでは入って良い」「これ以上は入ってはならない」を判断できることが必要です。

さて、幼い頃の君たちを思い出してみてほしい。小さい頃は、他の人の家であっても、あちらこちらに入っていきましたね。かくれんぼをしたり、鬼ごっこをしたり。友達の家も、親戚の家も、その家の人の都合などはおかまいなしでした。ただ、もし、今の君たちが、同じように同じ遊びをしたら、絶対に許されませんよね。

人の心も同じだと思います。「見せて良い心」と「見せられない心」がある。「入ってもらって構わない部分」と「入られたら傷つく部分」がある。

先日までテレビで「鬼滅の刃」を放送していました。実は人は誰もが心に「喜・怒・哀・楽・憎」がある。その中の、負の感情を、いつでも、だれにでも、お構いなしにぶちまけるのは、幼い子供と同じです。「怒」や「憎」や「差別」「軽蔑」といった「心」は、家に例えれば、「とてもとても人には見せられない部屋」と同じ。社会生活（学校）では、簡単に人に見せてはならない部分だ、と考えます。

もちろん、家と同じように「心から信頼できる人」に対しては、その弱い部分・汚い部分を見せて構わない。誰もが持っているのだから、あまり我慢しすぎるのは良くないとも言える。むしろ、見せることでお互いの絆が深まることもある。

ただ、その感情を「見せていい場所とタイミング」を考えなければならないと思います。言って良い人と悪い人を判断できるようにならなければならない。

絶対に、その心が言葉の刃となって相手の心に突き刺さることがあってはならない。そう思います。

話は変わりますが、東日本大震災まで中学生が良く言っていた言葉で、震災の後、まったく聞こえなくなった言葉があります。それは「死ね」。おそらく、当時の中学生も、その言葉が、いかに相手を傷つけるか、いかに言ってはならない言葉であるか、身をもって学んだのでしょう。

君たちも学びの途中にいます。大人になる過程にいます。相手の気持ちを考える。自分の心の部屋を整理する。その大切さを知って欲しい。これからもお互いを思いやれる学校を目指していきましょう。